



はじめに「音」ありき

舞行李
춤고리

されている先生が自らしてくださった伴奏は、私たちにとって一番踊りやすい「音」であり、たたき方でした。

「音楽」だけではなく「音」そのものにも？

寿玉 声ひとつでも、踊りたくなるようなことがありますよ。

お稽古場に訪ねていらつしやる方々やお弟子さんの中にリズムをとったりクウム(口音注1)が上手な方がいて、そういう方がちよつと声を入れてくださると、本当に気持ちがいいもの

でした。私は自分ではそういう体験を練習生にさせてあげられないのをとても残念に思っています。

— そのような「音」との出会いには寿玉さん御自身の望みでもあるのですか？

寿玉 はい。魂を揺さぶられ、舞がほとばしり出てくるような、そんないい音楽や音がほしい！

自分の内にあるものを引き出してくれるピーンとした緊張感のある音。安心して集中できる暖かさのある音。そんな音の世界で踊って行きたい。

注1 口音：声を楽器のように用いて音楽を出す。スキヤットと似ている。

— 今年も、よろしくお願いいたします。

寿玉 こちらこそ

— 実は昨年、スゴンのお話を伺ったときからお聞きしたいと思っていたのですが…

寿玉 何でしょうか？

— 踊りの伴奏の音楽についてです。確か、舞を通して自分が語るのではなく、空間、音楽、リズムの持っている言葉の共感というようなことを語られたと思います

— ドラマチックですね。ですが、どんな音でもそのように感じられるわけではないでしょうか？

寿玉 すばらしい楽師の先生方とご一緒させていただくと、まるで懐に抱かれて踊っているような信頼感というか愛情を感じます。まさか先生方はそうは思っではいらつしやらないで

— 生音」ということでしたら、舞台公演に限らなくても…

寿玉 そうなんです。李梅芳先生の下でお稽古をさせていただいていたときのことで。先生がチャンゴで伴奏をしてくださいました。その「ピシャツ」という音が忘れられません。それは人に痛い思いをさせる「ピシャツ」ではなくて、心と体を奮い立たせてくださる「音」でした。踊り手の心と踊りを熟知



写真▲ 国立国楽院民俗演奏団 芸術監督 金清満氏
▼ 踊りの伴奏をする李梅芳氏 (韓国重要無形文化財 サルブリチュム・僧舞保有者)



— 踊りの伴奏の音楽についてです。確か、舞を通して自分が語るのではなく、空間、音楽、リズムの持っている言葉の共感というようなことを語られたと思います

— ドラマチックですね。ですが、どんな音でもそのように感じられるわけではないでしょうか？

寿玉 すばらしい楽師の先生方とご一緒させていただくと、まるで懐に抱かれて踊っているような信頼感というか愛情を感じます。まさか先生方はそうは思っではいらつしやらないで

— 生音」ということでしたら、舞台公演に限らなくても…

寿玉 そうなんです。李梅芳先生の下でお稽古をさせていただいていたときのことで。先生がチャンゴで伴奏をしてくださいました。その「ピシャツ」という音が忘れられません。それは人に痛い思いをさせる「ピシャツ」ではなくて、心と体を奮い立たせてくださる「音」でした。踊り手の心と踊りを熟知

— 今年も、よろしくお願いいたします。

寿玉 こちらこそ

— 実は昨年、スゴンのお話を伺ったときからお聞きしたいと思っていたのですが…

寿玉 何でしょうか？

— 踊りの伴奏の音楽についてです。確か、舞を通して自分が語るのではなく、空間、音楽、リズムの持っている言葉の共感というようなことを語られたと思います

— ドラマチックですね。ですが、どんな音でもそのように感じられるわけではないでしょうか？

寿玉 すばらしい楽師の先生方とご一緒させていただくと、まるで懐に抱かれて踊っているような信頼感というか愛情を感じます。まさか先生方はそうは思っではいらつしやらないで

— 生音」ということでしたら、舞台公演に限らなくても…

寿玉 そうなんです。李梅芳先生の下でお稽古をさせていただいていたときのことで。先生がチャンゴで伴奏をしてくださいました。その「ピシャツ」という音が忘れられません。それは人に痛い思いをさせる「ピシャツ」ではなくて、心と体を奮い立たせてくださる「音」でした。踊り手の心と踊りを熟知

揺らぐ布の呪術性

藝能学会会員 フリーライター
野上圭



領巾

今年の初春歌舞伎は17年ぶりに再演された『御ひいき勧進帳』を見物してきました。一幕目が『女暫（おんなししばらく）』。雀右衛門が45年ぶりに勤めるといふのですから、何としてでも見ておきたかったです。

この夜の舞台は、雀右衛門、富十郎という二人の人間国宝が江戸のおおらかさたつぷりに描き出す、初春の華やぎと寿ぎに満ちた素晴らしいものでしたが、同時にラッキー!! ということが起こりました。それは三幕目で舞台から客席に手拭を撒く演出があり、花道の近くに座っていた私は、幸運にもゲットでき

たのです。投げる数はせいぜい30〜40本ほど。『京鹿子娘道成寺』でも手拭いを撒きますが、手することはほとんど不可能。「こいつあ、春から縁起がいいわえ」だったのです。

歌舞伎役者が襲名のご挨拶廻りに配るのは扇と家紋を染め抜いた手拭と決まっています。扇は陰と陽を一体で表し、それを自分の前に横一文字に置けば、結果を作ることが出来る呪物です。ではなぜもう一つが手拭なのでしょう。

手拭が普及するのは江戸時代ですが、ルーツは遠く古代にまで遡り、また広くアジアに求め

られるようです。万葉集のなかに「岩代の浜松が枝を引き結びま幸（さき）くあらばまたかへりみむ」という、有間皇子の歌があります。松の枝をどのように結んだかは現在わかりませんが、道の神に道中の無事を祈つて草や枝に自らの魂を結び付け、魂が遊離しないように願ったものです。

道の神への捧げ物には幣（ぬさ）を手向ける方法もありました。幣には麻や木綿（ゆう）の楮の樹皮を剥ぎ、繊維を細かく割いて糸にしたものや紙があり、帛（はく）は絹布も用いられました。この幣は神に奉る呪具で、ここに手拭のルーツがあるようです。幣が象徴するのは衣服で、衣服は肌に密着して身体と魂を包むもの。それゆえ幣は自らの肉体や魂の一部を切り取って神に捧げ、神の保証を得るものと考えられました。手拭も衣服の一部と考えられ、魂を相手に捧げる呪物としての性格を根底に秘めているとしたら、祝い物に配るのもなるほどと領けます。チベットのブーツでも峠や村境などの地境で布を供えたり、石を積んだりという景色をテレビで見たことがありますし、ダライ・ラマに布を捧げる光景もニュースの一場面で目にしまし

た。朝鮮半島や中国にも同じような風習があるのでは？

幣がルーツの不思議な意味を表す他のものとして、領巾（ひれ）と袖があります。領巾は細長く薄い布で、波や風を起こし

また静め、害虫や毒蛇などを追い払う呪力をもつ物と信じられ、後には装飾として女性が肩からスカーフのように掛けるものへと変化していきま

した。その文脈を色濃く受け継いだのが袖です。額田王の「茜さす紫野行き標野行き 野守は見ずや君が袖振る」の「袖振る」は魂乞いの呪術的行為で、柿本人麿の泣血哀働歌からは、死者の蘇りを願う魂乞いにも袖を振ったことが伺えます。袖は衣服の一部でありながら極めて呪術的な存在です。

明暦3年（1657年）1月18日、本郷の本妙寺で施餓鬼のために振袖を燃やしていたところ、その振袖が風で飛んで、死者10万8千余人、江戸中を焼き尽くす大火事が起きてしまいました。これが振袖火事ですが、年若くして亡くなった娘さんの魂が引き起こした惨事、というよりも袖の不気味さが漂います。



お三輪が片袖を脱いでいるところ（肩脱）

演劇でも袖が果たす役割はとも大きく、物狂いを表す演出に肩脱（かたぬぎ）があります。能の『班女』や『百万』、歌舞伎の『妹背山婦女庭訓』のお三輪や『三人吉三』のお嬢吉三など、いたるところに肩脱の女性が登場します。いずれの場合も心痛や激情のために精神が尋常ではない状態を表しています。互いの真心の証のために袖をちぎって取り交わし、自分の着物に縫い付ける『夏祭浪花鑑』、恋い焦がれるお姫様の袖をすつと懐に抱き続ける『桜姫東文章』等、袖を用いる演出は多彩です。スゴン、幣、領布、手拭、僧舞の長い長い袖、肩脱にされる袖。これらは皆、同じ文脈上にあるもののような気がします。揺らぐ布に同じように感じる呪術性の根源を、もっと調べてみたいと願う梅の季節です。

同医食源



韓国薬食同源思想を代表するサムゲタン

日本で韓国料理を食べに行く
と、料理のバランスの悪さが気
になります。多くの店では医食
同源の理(ことわり)を知らず
に料理を出しているの、食べ
ると体のバランスを崩しかねま
せん。韓国ではこのようなこと
はまずありません。

韓国では、生活の隅々にまで
陰陽五行の考え方が入り込んで
います。かつて科挙を受けるに
は四書と五経という九科目を勉
強しました。五経の中に易教が
あり、ここに陰陽五行の理が書
かれています。

五行というのは、自然の成り
立ちを五つの要素に分解したも
のです。また陰陽により、自然
界のバランス状態を説明します。
自然界及び自然界の一部である
人間の世界は、現在のバランス
が崩れると次の事象に移って
きます。万物は全てこの原理に
従って変化し続けていると考え
ます。

五行は木、火、土、金、水か
らなります。五行はそれぞれに
方位や季節と結びついており、
それぞれを象徴する色も決まっ
ています。

方位で言いますと、東は青、
西は白、南は赤、北は黒です。
中心は黄色になります。古墳が
発掘すると、墓の四方に動物が

描かれています。青龍、白虎、
朱雀、玄武というのは、それぞ
れの方位を守る空想の動物です。
また、韓国や中国の歴史映画を
見ると、皇帝や王は黄色の服を
着ています。黄色は中心を示す
色なので、それを着る意味が分
かります。

季節で言いますと、春は青、
夏は赤、秋は白、冬は黒です。
季節の変わり目である土用が黄
色になります。

人間の体も五行で説明します。
木の内蔵は肝と胆です。火の内
蔵は心臓と小腸です。土の内蔵
は脾臓と胃です。金の内蔵は肺
と大腸です。水の内蔵は腎臓と
膀胱です。

この木、火、土、金、水のバ
ランスが崩れると病気になるま
す。ですから病気を治すには、
バランスを崩した臓器と同じ色
の食べ物を食べればよいと考え
ます。

木は青色、火は赤色、土は黄
色、金は白色、水は黒色です。

この理屈から言うと、肝臓の悪
い人の顔色は青くなり、心臓の
悪い人の顔は頬が赤く火照り、
脾臓の悪い人は顔が黄色くなり、
肺の悪い人は顔が白くなり、腎
臓の悪い人は顔がどす黒くなり
ます。

ですから、肝臓の悪い人は青

汁などの青い色(緑色)の野菜
を食べ、心臓の悪い人はトマト
などの赤い色の食べ物を取り、
脾臓の悪い人はカボチャなどの
黄色の食べ物を食べ、肺の悪い
人はだいこんなどの白い野菜を
取り、腎臓の悪い人は、黒豆な
どの黒い食べ物を食べると体に
よいのです。

また、食物そのものは陰陽の
バランスを取って食べなければ
なりません。肉は、陽の食べ物
です。ですから肉を食べるとき
には同量の陰の食べ物、即ち、
サンチュなどの青野菜を食べな
ければ体のバランスを壊してし
まいます。

韓国では、肉は有料ですが、
野菜は無料で大量に出て来ます。
医食同源の考えからすれば、肉
を頼めば、野菜が出てくるのは
当然のことなのです。

日本では野菜は別に頼まなけ
ればなりません。この事実から
も、日本の韓国料理店は医食同
源の理を知らずに商売をしてい
るところが多いと感じます。

(李起昇)



掲示板

日韓友情年2005

日韓芸能交流

文楽とパンソリ

3月3日(木) 5時開演

4日(金) 2時開演

国立劇場小劇場

壺坂観音霊験記

(沢市内より山の段)

春香伝 国立国楽院

一般3000円

学生2100円

主催 文化庁 大韓民国文化観光部

国立劇場チケットセンター

03(3230)3000

宋一根展示会

4月1日~4月10日

ギャラリー1軒では、田んぼでお

米、畑で野菜を作り、その土で人

形、お皿、お茶碗を作り、自然が

先生だと口癖の作家、宋一根の展

示をします。

4月1日 午後2時より

趙寿玉が踊ります。

ギャラリー1軒 山梨県南巨摩郡増

穂町平林2397

0556(22)6759

韓国伝統舞踊 横浜公演

J高麗亜 韓舞・濱七女

4月22日(金)

午後6時30分開場 午後7時開演

カナックホール(神奈川県民セン

ター)

前売2500円 当日2800円

主催 在日韓国伝統芸能

「J高麗亜」

045(432)9326

出演 千善明 趙寿玉 尹福美

金春江 柳美羅 丁宣希 金美福

その他



おさらい会に参加して

小関美紀

昨年十二月、はじめておさらい会に参加しました。その一ヵ月ほど前までは、おさらい会で何を踊るかという話になっても、遠い将来の話のようであまり現実味がなく、周りから「美紀ちゃんも踊るんだよ」と言われても、半信半疑で聞いていました。踊った後、もっと早くからおさらい会を想定して練習していれば良かったと痛切に感じました。

おととしの十月、韓国舞踊を全く見たこともないのに、朝日カルチャーの教室に通い始めました。舞踊ってどんなものかなという軽い気持ちで始めて、初日から「エライ所に来てしまった」と感じはしたものの、韓国舞踊を全く知らないことがかえってよかったのか、それほど出ていないという意識がなく、練習も苦ではありませんでした。もしこの時、自分のあまりの出

来なさをまとも知っていたら、その時点で韓国舞踊は諦めていたでしょう。当時自分がどうだったかは覚えていませんが、ずっと引つ張って来て下さった先生や先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

今回のおさらい会で、「自分の体で表現する気持ち良さ」を味わいました。楽器などの道具を通してではなく、自分の全身を使って直接表現する面白さを感じたのは、初めてのことでした。韓国舞踊はもちろん、あらゆる舞踊と無縁だった私には、とても新鮮な感動でした。でも、今は、その時の感動を思い出すのに苦労します。このように言葉で説明することはできるので、肝心のあの心地良さは思い出すことができません。あの時の状況を思い起こしても、感動までは込み上げて来ません。多分、次のおさらい会で踊り終えた瞬間に、自然に甦って来るのだと思います。それまで悔いのないように毎回大事に踊りたいと思います。



活動記録

◎2004年12月5日
六本木 曙会館にて

【宋和映、趙寿玉韓国伝統舞踊公演】を行う。

日本舞踊の殿堂である曙会館での韓国舞踊、特に教坊舞を中心としたプログラムは、その空間を不思議な時空へ導いた。250席はすべて埋まり盛況のうちに終わった。

◎2004年12月24日

ティアアラ江東 大会議室にて、【舞とソリ(音・唱)】の公演を行う。「子どもの音楽文化協会」の主催によるもので、韓国伝統民俗芸能の鑑賞を通して日韓相互の文化交流を密にし、さらに友好関係を深めようという意図のもとに行われた。今回の公演は、中越地震チャリティコンサートも兼ねたものだった。演目はサルブリ、チャングチュム、剣舞など。

◎2005年1月12日
江東区文化センターにて、【韓国の伝統芸能を観よう】を行う。2004年度江東区文化センター後期講座、「東方の明かり・パワーの国、韓国」の最終回に特別鑑賞会として開催された。演目は僧舞、民謡舞、五方舞など。舞踊や楽器の解説を織り交ぜながら、伝統的な韓国舞踊と民俗音楽を観客席の講座生や、一般のお客様と一緒に楽しみました。



▲浄化舞@曙会館



▲江東文化センター